

躍動

TGスポーツOB連合会報
第 4 号
平成24年10月1日発行
企画広報委員会編集
(躍動・本間良一会長書)



第 4 号 発行 によ せて

TGスポーツOB連合会 会長 本 間 良 一
(昭和33年 文経卒)

今年も会報発行の季節となりました。

会報「躍動」第4号発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

日頃はTGスポーツOB連合会に暖いご支援とご協力を賜り有難うございます。心より厚く御礼申し上げます。

お陰様でTGスポーツOB連合会は今年で40周年を迎えることが出来ました。昭和47年「TG春秋会」の名称で体育会OBの有志により設立され、その後平成6年の臨時総会において「TGスポーツOB連合会」と会の名称が変更され現在では48団体、約15,000名の会員を有する大きな組織になりました。

しかしながら総会では「昭和30年代の東北学院大学の体育会は東北の雄として多くの部が全国大会で活躍していたが最近、東北学院大学のニュースが少いのではないか」との母校東北学院大学スポーツの弱体化を憂う厳しいお叱りの声が出ています。

一方学校側もその辺の危機感を感じて来たようで「強い東北学院大学のスポーツ復活のための対策について」検討を始めたようであります。

そんな中、先日硬式野球部が第7回東北地区大学野球選手権で東北福祉大学を破って初優勝、東北福祉大学からの白星は2007年秋の仙台六大学リーグ戦以来の快挙を成し遂げました。更に陸上競技部は来る10月28日に仙台市で行われる杜の都女子大学駅伝に7年振り出場する云う明るいニュースがありました。

また、先般行なわれた第17回宮城県ジュニアゴルフ選手権大会で優勝した東北学院榴ヶ岡高等学校ゴルフ部の生徒が「来年は大友富雄監督の元で指導を受けたいので東北学院大学のゴルフ部に入りたいと云っている」と云う嬉しい話を耳にしました。

運動部の強化には優秀な選手を集めることも必要ですが、監督・コーチ等素晴らしい指導者の育成・選任も大切なことだと云うことを改めて感じた次第です。

会報「躍動」も情報の共有化、チーム力強化のツールとして皆様に大いに利用され役立つことを念じつつ第4号のご挨拶とさせていただきます。



2012 吉田 秀彦氏と

されどスポーツ

理事長 高 橋 富士男

(昭和45年 法卒)

ロンドンオリンピックが終わった。多賀城キャンパスの教職員食堂で「柔道ダメだったネ」と毎日のように言われた。敗因はいろいろあろうが、やはりハングリー精神の差だと思う。オリンピック代表となった社会人選手はほとんど所属で仕事をしていない。午前中はトレーニング、午後からは主に母校の大学道場で稽古をして給料をもらっているのが実状である。

柔道雑誌に書いてあったが、自分で後輩相手に自己満足程度の稽古をして、夜は後輩を連れて焼肉食ってビール飲んで、翌朝も適当にトレーニングでは勝てるはずもない、とかなり手厳しい論評であった。今回、韓国の男子は金メダルをふたつ獲った。ハングリー精神に加え、メダルを取ると生涯年金が支給される国であるので力も出ようというものである。4年後のリオに向けて選手が単身で海外に出向くなどして上げ膳据え膳状態の生活から脱して独り立ちしないと今回と同じ結果になるだろう。

今回のオリンピックで山梨学院大学勢が頑張った。水泳の鈴木選手やOGの寺川綾選手はともに美人なのでとりわけ目を引いたのかもしれない。4学部で学生数4千名にも満たない大学なのにスポーツの成績はすばらしい。大学駅伝で名を売って、レスリング、柔道、ホッケー等々と全国トップクラスの実力はなんなんだろう。結論は「大学にやる気があるから」に間違いない。

北島康介選手や寺川綾選手を育てたことでも有名な水泳の平井伯昌日本代表ヘッドコーチ（早大卒・49歳）が来年から東洋大学の準教授に迎えられ、水泳部のコーチに就くという。大学が創立125周年を記念して昨年、都内に総合スポーツセンターを建設し、そこに50mプールも作った。併せてアスリートビレッジの名称でスポーツ寮も新築しての力の入れようである。東洋大は駅伝に加えて東都野球でも頑張っている。指導陣、施設が充実していれば当然のごとく全国からトップアスリートが入学するであろう。やはり大学執行部のやる気にかかっている。

早稲田、慶應ならいざ知らず、大学の規模がウチよりも小さかったり、偏差値も同じような大学がやっていることをなんでウチができないんだろう、と思わず愚痴ってみたくなる。オリンピックからだいぶ話が飛んでしまった。

TGスポーツOB連合会は今年で発会から40周年を迎えた。現在46団体が加盟しているが中には何の音沙汰のないところもある。ここ10年くらいのデータを見ても年会費の納入率は70%ほどであり3割の団体が未納となっている。組織として黄色信号である。総会開催案内などを郵送しても戻ってきてないので届いてはしよう。このような状況から脱するために、そして、OB団体として再生するためにも全団体の加盟を一旦白紙とし、新たに加盟届の提出を求めているかが



北海道遠征打ち上げ・札幌キリンビール園。

かと考える。このことは前回の理事会においても発言したが同調の理事が多かった。来年は役員改選時期でもある。TGスポーツOB連合会は再生に意のあるOB団体の連合により初めて足並みを揃えて大学当局にいろいろのお願いや要望が可能になるのであろう。もちろん、いまの46団体の加盟を理想とはするが結果はそうはならないであらう。まずは仕切り直しをして、来年度からの新体制のもとで50周年、70周年に向けて再スタートを切るのが最良だと考える。

昨年「学長室」が誕生した。そして、今年の5月の東北学院同窓会代議員会において同窓会設立来初めての「学外」からの同窓会長が誕生した。学長室はスポーツ強化に向けて発信する部署であると理解しているし、同窓会も民間人会長のもとで更に活性化されるであらう。この二つの誕生は本会の今後にとっても明るいニュースである。その前に本会としてまとまることがなにより大事であるが。



國學院大学、各県警との合同稽古・本学道場。



平成24年度全日本学生柔道優勝大会（日本武道館）



平成24年度東北学生柔道体重別選手権大会（岩手県営武道館）

各部から

硬式野球部



現役との関係強化

硬式野球部 OB会会長 荒浪 秀男
(昭和46年 経経卒)

我が硬式野球部は、大正11年に創部、本年度で90年となります。母校東北学院が、創立百周年を迎えた記念すべき昭和61年に、OB会が硬式野球部「六十五年の歩み」を発行いたしました。OB会の歴史も昭和31年に前身である硬式野球部後援会が、名誉会長和泉幸一郎教授、会長黒沢孝平先輩の基、発足されました。その後、安定した年会費の獲得とOB各位の連絡と親睦を計る目的とし、新たにOB会を新設、規約を設け、大々的に部の後援に乗り出すため、昭和53年に現在のOB会の発足となりました。初代会長は、練生川寅三先輩が務められました。練生川先輩の名は現在でも優秀選手に贈られる練生川賞として続いております。このような長い歴史のなかで、指導者及び選手を選出してまいりました。また昭和45年4月に仙台六大学野球連盟が創立され、本年度で42年目を向かえ、全国でも有数のレベルを誇る連盟となり、内外の注目を集めておりリーグ戦にはプロのスカウトを始め、数多くのファンが観戦するようになりました。既に連盟により40周年史も発刊されております。また、プロ野球界には多くの選手を送り出しております。本校野球部でも、西部ライオンズの星捕手や岸投手も現役で活躍しておるところです。また七十七銀行を始め、社会人野球の選手としても輩出しております。

我がOB会も現役野球部への支援はもとより、年1回の総会後でも卒業生のOB会への入会式や活躍選手への表彰等現役選手の士気高揚の一助と成るよう、OB会と現役の関係強化に努めているところです。

現在泉キャンパスに立派なグラウンドを有し、更には本大学による雨天練習場の設置計画も進行中となっており、以前にも増した練習環境が出来上がることは、神宮での全国大学選手権を目指す学生にとっては、大変喜ばしい事と思います。OB会としても、微力ではありますが、支援していきたく思います。

思い起こしますと、我々現役時代は、多賀城工学部グラウンドが主な練習場でしたが、固定ではなく笠神グラウンド等多くのところを転々としたジブシー練習をしたことを思い出します。当時は監督、コーチもOBで、いろいろな面でOB会の支援をいただいたことを思い出します。これからもOB会として、出来るだけの支援を現役の選手にしていき、OB・現役の関わりを強め、全国大学選手権に出場の一助になるよう努力していきます。

最後になりますが、本間会長はじめT GスポーツOB連合会のますますの発展を望みます。

サッカー部



“とこしえの友情を覚えて”

サッカー部OB会事務局 佐藤 順
(昭和45年 経商卒)

東日本大震災から、早1年と6ヶ月が経過しようとしております。復旧・復興のスピードは目覚ましいものがありますが、一方では福島原発地域においては復旧の目処すら経たず、住まいを奪われた住民達のことを思うとき、如何に人間のなす力の無さに只々失望すら覚えるものであります。

我がサッカー部は大正13年に部として発足し、後に隆盛期を築いた昭和31年、第4回全国大学選手権において立教や東京教育大学（現筑波大学）を退け、地方



大学として初の決勝進出、連日の激戦と怪我人続出の中、決勝戦では早稲田大学に大敗を期しはしたものの、準優勝は輝かしい戦績でありました。なお、この決勝戦は当時としては非常に珍しくテレビ放映されました。その時のメンバーでありました山形明義先輩（本間良一会長と同期）は5月30日に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

恒例の対青山学院とのゴルフとサッカーの定期戦は、回を重ねること第43回の開催となりました。ゴルフは7月21日（土）宇都宮ロイヤルゴルフ倶楽部で24名の参加をいただき、本学からは大学サッカー後援会会長の峯岸良造様と副会長の菅原裕典様を含め、11名のメンバーでの参加でこの時期としては、珍しく涼しい中でのプレーができました。因みに優勝は東北学院大学サッカー部後援会幹事の高橋公晴さんが、遠征2連覇を成し遂げました。

プレー後、青山学院OBの方々の車に分乗し、懇親会々場の目黒区自由ヶ丘「蕎麦処・山久」（本学44年卒の山田隆氏・元三菱重工）に場所を移し、両校30名のOBが集い友情を深めることが出来ました。中には、情報を嗅ぎつけて参加してくれた中央大学サッカー部監督の（学院高校・昭和53年卒）佐藤 健さん他同窓のOB4名も参加され、賑やかな会となりました。翌22日（日）は、相模原の青山学院大学緑が丘グラウンドにてOB戦を開催、始めに青山学院サッカー部元部長の田所勝太郎先生から歓迎のお言葉を頂戴し、本学からは松谷一夫会長の御礼の挨拶、引き続きキックオフ。往年の選手達の珍プレーなどもあり、和やかな内にも白熱した交流試合となり、2対4で惜敗、悔しくも佐藤秀臣杯を引き渡してしまいました。

今交流大会の運営に当たられた、青山学院の中林隆夫くんをはじめとする、多くのOB諸兄と現役マネージャに感謝を申し上げます。

*“For the Uchanged Friendship and
Burning Spirits of Football Forever ...”*



「自然」

東北学院大学山岳会 会長 松倉 和義
(昭和36年 文経卒)

我々がこよなく愛し癒され、仲間同志をこれまでも結び付けてくれる「山」。これも自然、そして昨年猛威を振るい多くの人命を奪った地震と津波。勿論これらも自然のなせる業です。我々はこの自然に、生かされ育まれ、そしてまた自然に帰って行くわけであります。

自然とは…等と大げさに考えずに、先週見た蔵王の山々、広瀬川の白鳥、それぞれが生きていく心の糧として与えてもらい庭の雪を肴に飲む一杯の晩酌、これだけで命をつないでもらえるわけです。

自然災害に遭われた多くの方々には心よりお見舞い申し上げます。テレビその他の報道を見聞するたびに、この自然の猛威に対して、悲しくそして非常に腹ただしく感じてしまいます。しかしそれだけでは無いと考えます。不可抗力と言いますか限界をどこまでに設定するか其れによりましては、人災の部分がいぶ多かつたのではないのでしょうか。

我々が自然から賜る多大なる恩恵を感受し最大限利用さしてもうらうには、畏敬の念を持って計画そして実施しなければならないと思います。それは許される許容範囲内で出来る限り我々が後々まで心の糧として、いやそれ以上の人生の栄養分となる様な計画であり実行に努めなければならないと思います。

中学時代の学校登山。たしか岩手山に登頂して網張温泉まで下った記憶があります。高校のときは、今は亡き四方田靖と舟形山に登り尾根ずたいに帰宅するつもりが時間切れで野宿。火曜日の朝一時間目が、厳しくて有名な担任で地理の先生。「おい！…そこの二人、たて」。四方田靖とは後ろの席で近くだった。顔を見合わせて覚悟を決め「舟形山に登り“サンボウ”を下ったところで雨に…」「馬鹿野郎あれは“ミツミネ”と言う

のだ…」あとは一切不問といった思い出があります。一般社会人が認めてくれた物事と解釈しております。

当山岳会の当面の目標として「マカルー登山」があります。過去マカルーベースキャンプ（MBC）近くまで、又MBCのちょっと上までと何回か現地調査に行っております。

その他の資料としては、写真を含めて多数入手しております。少しずつではありますが進んでいると思います。近い将来MBCの上方7500m位までの小登山を計画しております。在仙部隊、カトマンズ、ツムリンター等飛行機で行ける所までの隊員様で宜しいのではないのでしょうか。宜しくご参加の程お願いいたします。お願いの続きですが、近々会員全員様にアンケートを実施させて戴くこととなりました。重ねて宜しくお願い致します。



マカルー (8463m)

柔道部

OB会長に就任して

南六会長（柔道部OB会） 遠藤 浩
（昭和38年 文経卒）

この5月の南六会総会でOB会長に就任しました。柔道部の創部は大正8年です。3年前に創部90周年記念祝賀会を盛大に開催することができましたが、会員数も多く、その会の会長に就いたことに責任の重さを痛感しております。

柔道部のOB会名称は南六会と言います。大学所在地が土樋となる以前の町名「南六軒丁」から上の二文字を頂戴し「南六会」と命名され現在に至っております。

我が柔道部は大学の前身であった専門部時代には全国にその名を馳せておりましたし、戦後も東北の常勝チームとして活躍しておりました。しかし、近年は残念ながらベスト4には毎年入りますが常勝チームとは言えない現状にあります。その要因としては、授業料免除などの特典を有して勧誘する新興大学の存在や国立大学の台頭もあるようです。現場で指導する師範や監督に聞くと他の競技部においても、かつてはほとんどの部が優勝していた東北地区大学総体において今やその面影はないようです。

しかし、東北学院大学は東北・北海道地区で最大規模の大学としてスポーツの競技実績においてもトップでなければならない立場であると理解しております。TGスポーツOB連合会の総会においても現在の低迷ぶりからいろいろの意見が出されます。もっともだとは思いますが、大学サイドから「スポーツを強化する」との方針でも打ち出さない限りはむずかしいことでもありましょう。現状を憂いてTGスポーツOB連合会執行部でも大学当局と話し合いの場を持っていることも聞いております。トップダウンでもなんでも今後に期待をしている所以です。毎日の指導で苦勞している監督さんや頑張っている学生諸君が報われる仕組みがないことはおかしなことです。

柔道部は佐々木俊三部長をトップとして師範、監督、そして部員との連携が良くとれております。これに南六会と柔道部後援会が支援する格好ですが、OB会の会費集めもこのご時世ですので事務局も頭の痛いところでもあります。しかし、部員あつてのOB会でありますのでこれからもいろいろの工夫をしながら運営してまいりたいと思っております。ちなみにOB会の、口を出すなら金も出せ、は今も続いております。

南六会会則に「会長の任期は一期5年、再任は認めない」と定められております。会長職の5年は責任の重い期間ではありますが、創部100周年に向けて、また常勝チームの復活を願って会員とともに一層の精進してまいりたいと考えております。



準硬式野球部OB会活動状況

幹事長 荒井 晶
(昭和63年 経商卒)

我が、OB会活動は以下のとおりとなっております。

- ・ 11月下旬 OB会総会、新卒予定者の入会式
- ・ 3月中旬 現役春合宿への援助（物資援助）
- ・ 7月中旬 OB会新聞の発行（会長挨拶、総会の状況報告、会員の執筆、入会員紹介、新入部員紹介等々）
- ・ 7月下旬 親睦ゴルフ（全国大会出場時、監督への選別集めが目的）
- ・ 8月中旬 OB会親睦野球、現役部員とのOB戦（ナイターで）OB会員親睦会（ビアパーティー等）
- ・ 10月下旬 現役部員との共催による少年野球教室（4チーム招待）

OB会発足後33年を経過し、伝統ある部であることを象徴するように組織はしっかりしていると自負する。特に、60歳以上の会員の方の、愛部心は非常に高く、会費の納付協力も高い。反対に新卒会員から30歳代の会員の愛部心が低いと感じられ、今後の活動のキーポイントとなっている。現状をふまえ、OB会の行事に若手会員が参加しやすいような配慮が必要と考えている。



菊田杯争奪卓球大会50回並びに 女子部創部50周年について

東北学院大学卓球部OB会 会長 樋口 光 成
(昭和42年 文経卒)

菊田杯は、東北学院大学卓球部の初代部長であられました菊田善三郎先生のご功績とお人柄を称えて、昭和38年に第1回大会を開催しました。あれから48年間皆様の温かいご支援のもとに一度も絶えることなく継続してまいりました。しかし、昨年の第49回大会は、東日本大震災の影響でやむなく中止とさせていただきます。そして、今年の3月第50回の記念大会がお陰さまで無事に終了することができました。

この大会が、ひとつの大学のOB会が主催してこのように永く続けていられること、また、これまでに数多くの日本を代表する選手を輩出してきたこと等、誇りに思っております。

女子部は昭和37年に創部されました。他の部でも女子部を作ったところはあったのですが、どの部も途中で挫折していて“東北学院大学体育会では女子部は育たない”との思いが体育会内にあったこともあり、学校当局では消極的でしたが、当時の佐藤鼎肆監督、多田憲司コーチ、佐藤行男マネージャーの一方ならぬご苦労と学校体育関係の関口憲三氏佐々木暉郎氏のご協力によって誕生したのです。

部員は高校での経験者2名だけでしたので団体戦が組めず学内から募集した3名を加えてやっとチームづくりができたのです。初出場の宮城県学生卓球選手権大会で見事に優勝して、創部1年目にして東北地区代表として全日本大学対抗卓球大会に出場できたのです。これもひとえに卓球のボールに触れたことのない全くの未経験者の三島幸恵さん（現 熊川）、沢藤和子さん（現 小原）、鈴木烈さん（故人）の3人がポイントゲッターの津田玲子さん（現 鎌田）、小室忍み子さん（現 黒澤）の負担を少しでも軽くしようとする物凄い努力、ポイントゲッターの2人は、3人の努力に報いようとする責任感といたわりの気持ちが成績に結びついたもので、この5人の先輩を考えずに女子部はありえないのです。この方達が植え育んだ“思いやり”と“いたわり”が後輩の女子部員に浸透していき、これまでに輝かしい戦績をあげ歴史と伝統を築いてきたのです。

平成24年7月14日（土）メトロポリタン仙台に於いて『菊田杯50回並びに女子部創部50周年記念祝賀会』を開催いたしました。TGスポーツOB連合会本間良一会長様はじめ多くの御来賓の皆様にご臨席を賜り盛会のうちに無事終了することができました。

今後、60年・80年・100年と継続してまいります。先輩から後輩へぬくもりのあるバトンをタッチして、充実した大会、強くまとまりのある部を目指して鋭意努力してまいります。



会報「躍動」の発行にあたり

体育会軟式野球部OB会事務局

体育会軟式野球部OB会の近況についてご報告いたします。現在、会員はOB・OG合わせて300名を超え、年1回11月に総会・懇親会を行っております。参加人数も年々増加傾向にあり、最近では、卒業間もない若い世代の参加人数が特に多く、大変賑やかで活気ある会となっております。卒業生は、公務員から教員、銀行員、会社員、自営業など多種多様な職業で活躍されており、現役部員はその様々な世代の先輩方と接する中で、就職等に関するアドバイスを受れたり、人生経験を聞いたりなど刺激を受けており、大変有意義な機会となっております。

また、現在の部の近況といたしましては、毎年、夏に合宿は、長い間伝統として、岩手県陸前高田市で行ってまいりました。それが、2009年を最後に長年宿泊所としていた合宿所が残念ながら閉鎖されたことにより、2010年は福島県の南相馬市で行いました。そのような時、2011.3.11の震災が起きました。学生時代、仲間と汗を流したグラウンドは、海に沈み、慣れ親しんだ町は壊滅。思い出の地はすべて無残な姿と変わってしまいました。また、今後新たな伝統となるべく夏の合宿の地として選んだ南相馬市も、原発事故により、たった1回で変更を余儀なくされました。

震災から1年を過ぎ、2012年は新たに合宿地を探し、秋田県横手市で実施する運びとなり新たな伝統を築いていきたいと思っております。

最後に、長年お世話になった陸前高田市をはじめ、被災された地域の復興と、原発事故の早期収束をお祈り申し上げまして、近況報告とさせていただきます。



平成24年度の挨拶

東北学院大学ハンドボールOB会 会長 仲 嶋 一 雄
(昭和41年 文経卒)

仙台はまだ残暑厳しく、寝苦しい時節が続いております。暑さに負けず、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお察し申し上げます。

日頃、東北学院ハンドボール部の活動に対しまして多大なご協力とご理解を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

昨年の大震災に遭い、今年は復興元年と言われておりますが、実態は程遠く順調には進んでいないと感じています。

その中で、学生生活を勉学とハンドボールに夢中になって汗を流す環境にある部員は本当に、幸福です。

それを自覚しながら、ご両親に感謝を忘れず、将来の自分が進む道を見据えて過ごして頂きたいと思います。

私が感激した事があります、春の選抜甲子園高校野球大会の選手宣誓です。石巻工の阿部主将がしました。多くの日本人に大きな感動を与えました。内容を紹介しますと、

人は誰でも答えのない悲しみを受け入れることは、苦しくて辛いことです。その苦難を乗り越えることが出来れば、その先には大きな幸せが待っていると信じています。

高校球児ができること、それは全力で戦い抜き、最後まで諦めない事です。

今、野球が出来ることに感謝し、全身全霊でプレーすることを誓います。

私も思わず涙を流しながら聞きました。スポーツをやる人として共通していると思います。

現役学生はネバーギブアップの精神をこれからの人生においても、必要ですし大事です。

ハンドボールの練習・試合を通して経験する機会を充分与えられていることに、感謝してより強い全国で勝てる学院大を目指してください。

甘えは自分たちを進歩どころか、ダメで社会から不必要な人間を創ります。

トレーニングは自分たちで頭を使って考えながらすることが求められます。ここ数年は一番欠けている点だと感じます。だから弱いかもしれません。

スポーツ選手をなぜ社会は求めるか、それは難局にあった時の我慢強さ、挨拶のさわやかさ、言葉使いの明かさ。礼儀作法の謙虚さ等が評価されるからです。しかし今の学生はまだまだ充分とは言えませんし、欠けている部分が沢山あります。社会は決して頭の良い・悪いだけで採用をしていません。スポーツ選手の身につけたい部分を認めているのです。

学生時代に人としてこれからの人生に必要な、心の優しさ・正しい信念を持った行動力・計画をやり抜く実行力等ハンドボールを通して学んで行ってもらいたいと思います。

学院大学ハンドボール部を応援してくださる、皆様方のご活躍をお祈りします。



決勝戦 中田中対成田中
中田中 大友の豪快なジャンプシュートがゴールネットを揺する!



キーパーが好セーブ!



挨拶

部長 谷 口 満
(文学部 歴史学科)

大震災以来のこの一年、私の職場にも様々な意見や要望が寄せられましたが、それらは大きく二つに分けることができます。一つは、大学に閉じこもって研究や教育ばかりやっているのはけしからん、外の現場に出て復旧・復興に直接かかわるべきだというものであり、一つは大学の使命は研究と教育にこそある、直接世間の役にたたなくてもよいから、一生懸命研究と教育に精進しなさいというものです。どちらが多いか、統計処理をしたわけではありませんが、後者が多かったことはまちがいありません。

大学スポーツに対する意見と要望もおそらく同様で、スポーツなどやっている場合かというものもあるでしょうし、いやこういう時こそ思い切りスポーツをやりなさいというものもあるでしょう。これについては、

後者が圧倒的に多いように思います。問題は、しかしだからといって、何かお墨付きをえたかのように、わがもの顔でスポーツに取り組んではならないということです。スポーツをしたいが、大震災の影響でしたくてもできない人々が大勢いる、そのなかでスポーツができることに感謝をしてほしいのです。

話を大震災にからめました。現今の大学スポーツで一番の問題は、実はこの感謝の気持ちが学生部員諸君にきわめて希薄なことなのです。父母に対する感謝、コーチやOBに対する感謝、先輩や後輩に対する感謝、大きく言えば社会に対する感謝、そういった感謝の気持ちが希薄なように思うのです。わが東北学院大学ハンドボール部でも、しばしばトラブルまがいのことが起こっているようですが、おそらくその根本的な原因はこの感謝の気持ちの希薄さにあることはまちがいないでしょう。

おおげさにいえば、これは戦後教育の最大の問題であるといえます。この問題を克服する使命を、大学スポーツは、東北学院大学ハンドボール部は担っているのです。その克服は、部員諸君の未来にとっても、日本社会の未来にとっても決定的に重要なことです。30余年の大学教員生活をへて60才を越えた今、何かひしひしとこのことが胸にせまってくるのです。

どうか部員諸君には、この問題に思いをいたして日々の練習にはげんで欲しいと思いますし、OB・父母の皆さんにも、この問題に思いをいたしつつのご支援をお願いしたいと思います。

少し教訓めいたことになってしまいましたが、部員諸君の健闘を心から祈っております。頑張れ、東北学院大学ハンドボール部。



フェンシング部

対青山学院大学定期戦に参加して

フェンシング部 監督 頼 藤 俊 夫
(昭和49年 経商卒)

本年の東北学院大学対青山学院大学総合定期戦フェンシング競技が、6月8日(土)に青山学院大学の青山キャンパス体育館において開催されました。当日は、あいにくの雨が、降りしきる中の遠征となりました。

一昨年は、キャンパス内が、あちらこちらで工事中でしたが、今年は、すっかり模様替えも済み、落ち着いた様子でした。

1試合目にフルーレ、2試合目にエペそして3試合目サーブルの順に行われました。

結果は0対3で青山学院大学の勝利に終わり内容ともに完敗となりました。

青山学院大学は、一時の部員不足から抜け出し現在は、男女30名を超える大所帯になっており、それにともない競技力のレベルが、向上していると感じました。

我が校は、部員不足を解消することができずにいるのが、現状です。青山学院大学の部員確保について大いに参考にしたいと思いました。

試合後に恒例の懇親会が、行われ両校OBも多数出席し選手たちの互いの健闘を称えました。

これまでこの定期戦が、果たしてきた役割についていろいろ語られてきましたが、昨年の震災においても改めて強い絆を感じる事となりました。深く感謝するとともに今後とも切磋琢磨し、好敵手となり続けていきたいと思ひます。





ボート部

「二つの金メダル」

6月3日に埼玉県戸田オリンピックボートコースに於て、第5回全日本マスターズレガッタ2012に出場して来ました。

前日に50年ぶりに、はとバスに乗り東京見学をしてから臨みました。

北は北海道、南は九州まで約1000名の出場選手です。我々は60才から64才のナックルフォア（KF）に出場、見事優勝しました。マスターズレガッタの趣旨は、日頃の練習の成果を発揮し勝利を目指すだけでなく、全国の漕友と交流を深めることが大事な目的です。去年は東日本大震災で中止となり、我々一発会は初めての参加でしたが、同じ年代のオアズマンが全国に大勢いることがわかりました。男子の最年長は86才で、女子は76才です。ちなみに80才以上のKFのクルーが4艇出漕していたことは大変驚きました。

又、6月24日に宮城県迫町長沼に於て、第21回河北レガッタ2000の壮年（40才以上）KFに出場して2位に2艇身の大差をつけて優勝しました。今回で5回目の優勝です。

この今年の二つの優勝に共通するのが、「練習」です。1月から筋力トレーニングを始め、マラソン大会に出る者もいれば、丘でのランニングに精を出す者もいました。4月から艇に乗り、ゴールデンウィークも関係なく、毎週日曜日に10kmを漕ぎ二つの大会に臨みました。今年は天候に恵まれ、これ程練習した年はありません。負ければ我々以上に練習しているクルーがいると思っていました。

「練習は嘘はつかないのが我々の信条。」





20年間一発会の仲間と漕いで来ましたが、今年こそ楽しく充実したレースを体験することが出来たことはありません。これも練習時にコックスしてくれた杉船監督のおかげと思っています。

これからも健康に留意し、1年でも長く一発会の仲間と漕げることを切に望んでいます。

人生すばらしき仲間一発会 東北学院仙艇会一発会

2番漕手 千田 宏

一発会監督 杉船敏彦

シート C伊東 俊一/S鈴木 和雄/3鈴木 俊/2千田 宏/B成澤礼義



ボクシング部 「常勝ボクシング部の復活を目指して」

平山典明
(平成2年 経経卒)

我が体育会ボクシング部を代表しまして、今回「躍動」に掲載する事に関しましては、TGスポーツOB連合会常任理事で現監督である佐藤今朝善氏より強い依頼があり、諸先輩方々を差し置き、若輩者の私が大変恐縮ではありますが、ご使命でありますので一言述べさせていただきます。

現在私は、体育会ボクシング部のコーチとして監督の指示のもと、現役部員の指導育成と、OB会事務局長を仰せつかっております。平成2年に無事に？卒業後約15年は、仕事の都合もあり、ほとんど関わりを持つことができませんでしたが、北海学園、青山学院定期戦でのOB戦に参加したことがきっかけで、現役時代を思い出し、強い選手をもっとも育てていきたい、全日本クラスや国体で活躍できる選手を輩出したいという思いが一層強くなりました。

皆さんも同じだと思いますが、卒業後しばらくは、社会生活に慣れるのが精一杯で仕事優先での生活になり、なかなか学生時代同様のお付き合いができないのが一般的と思われます。私も先程のきっかけが無ければ、後輩の指導育成やOB会運営には100%携わってはなかったと思います。OB会を通じた先輩後輩の働きかけが、いかに大事であるのかがわかりました。

世代の違う現役部員と接し、特に感じた事は昔の我々の時代とは違い、厳しさと同時に楽しさ、協調性、なぜ部活動を続けていくメリットがあるのか？といった事を根気強く話し合っていかなければならないという事がわかり、又、監督コーチまかせではなく、OB会としてのバックアップ体制やある程度の金銭的支援もないと、本当の強い部にはなれない時代なのかもしれません。

我が部も部員が2名と危うき時もありましたが、今年は3名の新人部員が入り、盛り上げムードになってきました。又、来年で創部60周年目を迎えるOB会も、約200名のOBが結集し、指定強化部を目指し、一丸となって応援していく所存であります。ボクシングというスポーツはマイナーなイメージもありますが、ここ最近ではロンドンオリンピックでメダル獲得する選手もおり、女子では有名な芸能人もマスコミを賑わせた事もあり、我が部でも女子の選手育成が今後の大きな課題となっております。



OB会平成24年総会並びに 全国大学女子駅伝出場

陸上競技部OB会 会長 鈴木 浩
(昭和37年 文経卒)

第32回OB会総会・懇親会が6月30日パレス平安にて行なわれました。

出席は25名と多くはありませんでしたが千葉（鈴木雄二郎君）・埼玉（柴田克英君）・酒田（佐久間辰巳君）と遠方からも出席され和やかなひと時をすごしました。

当日は全国大学駅伝男女の予選会が角田陸上競技場で行なわれ、女子が予選会2位入賞にて全国大会の出場権を獲得、との朗報が入り懇親会会場は一層の盛り上がりとなりました。女子のこの大会出場は7年振りです、7年前に作成の応援用の横断幕など、ようやく目の見る事になり、当時カンパを戴いたOB諸兄にはあらためて感謝を申し上げます。

全日本大学女子駅伝は仙台にて10月28日行なわれます。

是非各部OB諸兄の応援をお願い申し上げます。



全国大学女子駅伝チームメンバー



萩生田千紗 横尾つばさ 木村奈津子 高橋恵 渋谷志帆 根岸千里 石川美悠 土屋千穂 横山明日香 佐々木梨菜



ワンダーフォーゲル部 O B会、会長就任にあたって

ワンダーフォーゲル部O B会 会長 河村 光 保
(昭和42年 文経卒)

平成24年1月2日のO B会総会において新会長となりました河村光保と申します。

当部は創部以来57年を経過し、現在のO B会員数は364名となっております。今年は大震災の復興元年の年となりますので、現役部員、O B会ともに一丸となり心も新たに活動を進めて行きたいと考えております。

今年の最大のテーマは現役新入部員の獲得でありました。学生の体育会離れが言われる昨今、当部も減少傾向にあり昨年までは4名の部員数でした。本年度は現役部員が全力で新人勧誘を進めた結果、全学年9名でスタートする事ができました。

また、O B会としてのもう一つのテーマは、現役をいかにサポートし、充実した学生生活を送ってもらうかという事であります。O B会も現役部員があつての発展であると思っておりますので今後ともO B会活動を通し、部の発展に全力で押し進めてまいる所存です。

今期のO B会の主な活動は次の通りです。

1. 山小屋（倉石ヒュッテ）運営委員会の設立と山小屋の再整備。
2. 老朽化した泉ヶ岳の方位盤の移設を含む補修工事。
3. 定例会
4月 福島県 半田山
6月 鬼首 禿岳
7月 岩手県鞍掛山～秋田県秋田駒ヶ岳
9月 福島県 東吾妻山～一切経山
11月 忘年山行 石巻 碩上山



山小屋「倉石ヒュッテ」 平成24年4月

インタビュー

第2回ゲスト 東北学院大学総務担当副学長兼学長室室長 佐々木俊三先生

本日は公務ご多用のところお時間を頂戴しましてありがとうございます。

先生がTG十五日会や職員研修会等において、これまでは学内から発信されることのなかった本学の姿勢などについて講演をされていて、その新鮮さと明確な指摘について心地よく思っている同窓生が多いようです。そんなことから昨年から始まりました本機関紙のインタビューコーナーのゲストとして先生に是非お願いしたいとの企画広報委員会の総意で今回、時間を頂戴することとなりました。どうぞよろしくお願い致します。

—— さて、早速ですが、先生は体育会長も経験されておりますが、東北学院大学スポーツの現状についてどのように思われていますか。

佐々木 個別的には、指導陣と学生との間の関係が良好で努力されているスポーツ部がある一方、目標もそれを実現するプロセスも明確でなくただ存在しているだけのスポーツ部があると思っています。ですが、東北学院大学のスポーツを全体として見ると、当たり障りが無く、どっちつかずで、取り柄や個性がなく、鳴かず飛ばずだと思います。スポーツの強力な個性が大学の広報として必要だと思っていますが、大学としてそこにどう進んでいけるのかの組織的な意思決定もなく、またそれをリードできる人材もいませんでした。

体育会長を経験したときに、体育会長とは学生に「頑張り」と激励するだけで、実際には何の決定権限もないお飾りだということに愕然としました。その最大の理由は、大学がスポーツをどう評価してい

くかの政策決定がなかったこと、スポーツが大学の魅力にとってどれだけの効果を持つかについて本腰を入れた議論をしてきていないこと、したがってスポーツ政策を実行すべき大学部局が存在していないこと、に尽きます。

学生が校歌を歌えないという嘆きを聞きます。応援団もチェアリーダーの団員も風前の灯火だと言われています。大学が組織を挙げて戦う舞台を設定しないのでは、学生も大学のアイデンティティーを持ってないでしょうし、大学への帰属意識も持ってないでしょう。大学の名誉に懸けて戦うという姿勢も育たないでしょう。「スポーツという舞台装置」が、この大学には欠けているのです。

スポーツに特化した学生は、学業成績が悪くて話にならない、という議論をよく聞きます。戦ってよく勝てる学生に能力が無いなどということはありません。逆に3000人の入学生を成績順にとったからと言って、今の東北学院大学のレベルでは、その一割は「学業成績が悪くてやる気もなく話にならない」レベルの学生が存在するでしょう。成績で一律に評価するのではなく、野球に特筆した能力を発揮する学生、ボクシングにどれくらい才能を発揮する学生、トランペットを見事に鳴らす学生、合唱団をうまく組織化できる学生、ボランティアで見事に変貌を遂げる学生、こういう一律にない能力を持つ学生を入学させることは、大学の資源を豊かにすることに繋がるはずですが、でもこうした方向へ動く大学の意思決定がありませんでしたし、大学経営において、こういう方向への可能性に目をつぶってきたのが、これまでだったと思っています。

私たちの大学には、大学におけるスポーツをどう評価し、学生の大学への帰属意識の開発のためにス



東北電力からの震災復興取り組みについての取材

インタビュー

スポーツをどう利用し、大学経営にスポーツをどう取り込んでいくのか、こうした経営の観点が存在していません。東北学院大学のスポーツの当たり障りの無い現状は、このことの帰結だと言って過言でないと思います。

—— TGスポーツOB連合会の理事会等においても大学はホントにスポーツを強化する気があるのか、などの意見がよく出されます。学生数が1万名を超える大学としてスポーツ寮もなく、また入学後の授業についてもサポート体制が見られない。たとえば必修科目を午前に組んでもらい、また語学についてかつては実施していた夏期の集中講義はできないかなどの意見です。聞きようによっては甘えた意見かもしれませんがこのことについてどう思われますか。

佐々木 スポーツ部に所属する学生が、勝手気ままを好んで、寮や寄宿舎に入りたがらない、と聞きます。すべての人々に寄宿舎を準備することは出来ませんが、戦う集団が寮や寄宿舎で団結心を養わなければ、勝つことは難しいと思っています。スポーツは重要な教育の一環です。生活全体をスポーツに捧げるためには、身体のメンテナンスからその管理指導、学業へのアシストの体制、個人の能力の開発への指導体制、優れた社会人になるための利他心の涵養、これらの教育を一貫して行う組織が必要です。

そうした寄宿舎の施設整備には、お金が掛かるとの議論があるでしょう。でもこの十年間、こういう



学生の教育に向けて、そこへのプロセスをどう具体化できるのか、そのための議論を大学はしてきたのでしょうか。拓殖大学で、学生寮を外部の会社を利用し、勉学の環境も整えて、経営管理をその会社に任せ、うまく運用できる施設を作った、との情報があります。実現のための「お金がない」という解答は、それを可能にする知恵も能力も意思もない、と告白しているのと同じです。

大学がスポーツに特化した学生を受け入れる以上、大学は彼らの教育に、その持てる資源や環境、組織やそれを効率的に動かす情熱を持った人材を投入すべきなのです。そこですべての問題を賄う必要があるのです。

以前、語学などの単位取得のための夏期講義がありました。しかし、これは現在では不可能です。学部教員に労働量増大の負担をかけることは、できないからです。これについても別の仕方のアシストを考える必要があるでしょう。

スポーツ部の指導監督を教員や職員にボランティアで任せてきた現実も、自己批判しなければなりません。大学は見てみぬ振りをしてきた、と言われても、反論のしようがないと思います。こういう体制では、職員は職務にも中途半端、スポーツ指導にも中途半端となり、「勝つ」ということに真剣に心を砕くことができません。中途半端で勝てるほど、大学スポーツも甘くないのです。大学スポーツにおいて「勝つ」ためにはどうすべきか、学生に勝利の美酒を味わわせ、そうした経験を通して優れた社会人へと教育していくために何をすべきなのか、こうしたことの議論を真剣に行わなくてはなりません。目標に向けての一所懸命さがたりない、真剣さがたりない、そこに向けての知恵と工夫がたりない、このことの自己批判なしには前に進まないと思っています。私の主張を簡潔に要約すれば、「スポーツは優れた教育である」という一言に尽きます。

—— いま、学長室からの発信でスポーツの強化について取り組み始めたことを聞いております。話せる範囲内で結構ですので、その狙いと実現性も含めてお聞かせいただければと思います。

佐々木 これまで述べたことを実現するために、すべての競技種目について八方美人的に強化することなど、不可能です。困難な隘路を切り開くためには、一点に集中し、そこを掘り崩す必要があると思いま

す。学長室は、学部横断的な取り組みを開発し、大学としての個性的可能性を花開かせるために、幾つかのプロジェクト化を推進してきました。そのプロジェクト化の一つとして、スポーツの特別強化を行います。その責任者として、ラグビー部部長の澤野先生を学長室副室長に迎えました。大学におけるスポーツの位置づけについて十分な認識を持たれ、またスポーツを教育として捉える情熱も持っておられます。

この特別強化のためには、現在の東北学院大学のスポーツ部の中で、指導監督体制が整備されていてしかも衆目の集まる部を選ばなければなりません。何回にも渡る討議の末、特別強化の対象スポーツを「硬式野球」と「女子バスケット」に絞りました。今後4年間に渡って人材を集め、全国大会で戦える組織を作ります。一点突破の一点とは、この二つのスポーツを指しています。

このプロジェクトには、言うまでもなく結果も求められています。それゆえに失敗もあり得ます。その場合には、現場サイドのみならずこれを検証監督する側にも、責任を取る覚悟が必要でしょう。それだけの真剣さが求められているのだ、ということです。このプロジェクトの検証監督のためには、学長室がこれにあたります。もちろん学生部の協力も必要でしょうし、「体育会」の協力も、「後援会」の協力も、また「スポーツOB連合会」の協力も必要なのです。大学内部および外部の各組織が足を引っ張り合い、冷眼視するようでは、スポーツ広報の目標など、到底実現不可能でしょう。組織が一丸となる必要があるのです。

こうして大学がスポーツによる広報に一步踏み出すことで、様々な副次効果が生まれると思っています。

1. プロジェクト化が進めば、これが大学スポーツ部局へと進化を遂げることもあり得るでしょう。
2. 学内でスポーツが学生たちの一つの舞台、ステージとなり、華となることで、学生の活動の活発化にも貢献できると思います。
3. また、地域の高校に対するメッセージ効果もあると思います。仙台圏の一部の大学だけではなく、東北学院大学が優れたスポーツ学生を集め始めたというメッセージ効果は大きいと言わねばなりません。

4. これまで放置されたままであった体育施設を、公式試合を行うことのできる環境へと整えていくための年次計画がたどれると思います。

5. スポーツに関係する社会の様々な組織や団体との連携が可能となり、この連携が可能にさせる副次効果の恩恵にあずかることが可能となります。

これらの効果が現実となり、絵に描いた餅とならないためには、工夫と模索、情熱と協力体制が必要なのです。

—— さて、少し矛先が変わりますが。先生は大学の災害ボランティアステーション所長も兼務されており、とりわけ昨年（2011年）の東日本大震災において先頭に立ってのご苦勞、そしてその活躍ぶりについては衆目の一致するところではあります。体育会の学生諸君も携ったことですが、責任者としてどのような対応をされたのか。そして、その効果、また、今後のこととしての課題点などがありましたらお聞かせください。



助け合いジャパン@宮城からの震災復興の取り組みについての取材

インタビュー

佐々木 早稲田大学の全国制覇したスポーツ部は、この東日本大震災の際に、部全体で三陸地方に入り、ボランティアをしたとの報告がありました。サッカー部では、被災地に入りその小中学生を組織化し、早稲田杯を冠して、地域スポーツ大会を開催しているそうです。そこでスポーツ部が現場指導を行い、子供たちに夢を持たせれば、早稲田大学は子供たちに早稲田へ進学したいとの動機を開発したことになるでしょう。組織の動き方の優れた大学は、震災をも無駄なチャンスにしないのです。

私たちの大学でも、個別の部はそうした社会活動を行っています。早稲田大学が被災地に入りうる持続的な回数と、被災地に近い東北学院大学が持続的に支援に入りうる回数とを見比べれば、私たちの大学が有利であることは、火を見るより明らかです。もっと組織的にこうした活動を可能にしていかなければなりません。それは、学生の社会化にも効果を持つのです。

東北学院大学の名前を冠したT G杯を種々なスポーツにおいて可能にし、スポーツのクリニックを大学で行い、子供たちにこの大学に入りたいとの夢を醸成させるための組織的な方途を実現させていかねばなりません。学生は競技の技術を磨くだけでなく、自らがそうしてきた工夫と知恵と技術を、幼い子供たちに還元し、還元することにおいて楽しみを見いだすのです。それができれば、学生にはそこで自らの存在価値を実感できる場が準備されたこととなります。

そうすることは、大学の施設を地域社会に開放していくことに繋がります。ミッションスクールとしての本学は、日曜の午前の大学開放を公式には認めていません。しかし、大震災に直面して疲弊している被災地の小中学生のために、スポーツ部門で大学が支援の手を差し伸べることは、地域社会の中で生きていかねばならない大学の社会的使命でしょう。またそれは大学の建学の精神にも繋がることだと思っています。大学がそうしたチャンスを逃し、地域社会に対して閉じた大学のあり方を続けるのだとすれば、大学スポーツの未来のあり方にも目をつぶり、展開の可能性に蓋をすることだと思っています。

震災にあたって、学生にボランティア活動を積極的に推進した根底には、被災者に関わり、被災者の痛みや苦しみに接することで、学生たちが何かを感じ考える機会を与えてもらい、そうすることで自分が社会の中で存在する価値を実感してほしい、そう

した思想がありました。この思想は、大学スポーツにおいても積極的な意味を持つと思います。体育会の各々が、災害ボランティアステーションを介して、地域へ入り、地域の子供たちのために支援の手を差し伸べてほしいと思っています。

——— T GスポーツOB連合会は1万5千名を超える組織です。T GスポーツOB連合会として今後に動いてほしい、とかこうやってほしいとの要望等があればお聞かせください。

佐々木 早稲田大学のこれまでに挙げた取り組みは、早稲田大学OBの震災への支援寄付によって可能となったことでした。スポーツ部門の震災支援のためには、東京から現地へのバスのチャーター代としてその寄付金が使われたそうです。大学スポーツの地域社会支援のためには、動くための資金が必要です。そうした資金協力のために、T GスポーツOB連合会が果たすべき役割があると思います。

また、大学でのT G杯誘致のためには、資金協力もさることながら、技術指導や運営面での貢献も可能だと思います。私たちの大学は、全体として、内向きに動いてきており、地域社会との連携へ大学を開放して繋がっていかこうとする動きに欠けていました。大学は一人で相撲を取ることは出来ません。若い人々を大学だけが単独で教育したなどと、傲慢な態度を取ることも許されないことです。外部の団体や組織と繋がり、それらの助けを借り、協力してよりよい地域を作っていくことに向かわねばなりません。そうした外部との連携の橋渡し役として、スポーツOB連合会が果たす役割はあると思っています。

スポーツの各々が震災に関し、社会支援を行っていると言いました。しかし、それが大学の広報になっていません。スポーツを通して大学が地域社会に広報しうるとすれば、それぞれ別個にやっているこうした善き営みを一本に糾合し、教育法人としての組織の力を結集することだと思っています。広報も下手だし、糾合化の努力も散漫だと思っています。

東北学院大学は大きな組織です。その大きな組織を動かしている血管が、動脈硬化を起こしているのです。眠れる獅子を獅子奮迅に活躍する暴れん坊にするためには、血管の梗塞を治し、血液の流動を活性化して、生き生きとした組織へと変えていかねばならないと考えています。

(了)

●インタビューを終えて

佐々木先生は柔道部長でもありますので、学生の幹部交代で道場に見えた際にいろいろのご意見を伺いました。中でも「スポーツという舞台装置」が大学には欠けているとの意見は正にそのとおりで、このことが一人でも多くの教員に浸透して行ってほしいと心から思いました。我々TGスポーツOB連合会も大学に対して不平不満を言うばかりでなく、学内にもこのような考えの先生もいるのだから共同戦線を張って前進するしかない、との意を強くした次第です。いろいろの貴重なご意見、ご提言に目からウロコ状態でもありました。ありがとうございました。

(9/12柔道場にてインタビュー)



インタビューを終えて

●佐々木俊三さんのプロフィール



<略歴>

- 1971年 上智大学文学部一般哲学科卒業
- 1972年 東北大学大学院文学研究科修士課程入学
- 1979年 東北大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学
- 1981年 東北大学文学部哲学科助手
- 1986年 東北学院大学教養部助教授
- 1994年 東北学院大学教養学部教授
- 1998年 体育会柔道部部长
- 2004年 東北学院大学教養学部長
- 2008年 東北学院大学体育会長
- 2010年 東北学院大学学長室長
- 2011年 災害ボランティアステーション所長
- 2012年 東北学院大学副学長（総務担当）

今春3月卒業生の主な就職先

空手道部

東陽ワーク株式会社、(株)J S S、大塚商会

剣道部

埼玉県警、大阪府警、全日本剣道連盟、山形刑務所刑務官、消防署（福島）、消防署（大崎）

硬式野球部

七十七銀行、バイタルネット、J R岩手（盛岡）、(株)トランス、佐藤病院（山形）、宮城第一信用金庫

ゴルフ部

大東建物仙台南営業所

サッカー部

七十七銀行、積水ハウス、大和ハウス、ミサワホーム、東日本ハウス

柔道部

宮城刑務所、(株)キンデン、(株)鐘崎、専門学校、自営

準硬式野球部

黒川広域消防署、(株)住友林業、(株)高瀬物産、(株)伊藤建設、(株)一条工務店、(株)パナソニック産業

水泳部

サントリー、近畿日本ツーリスト、ブルボン、セブンアンドアイ、東北セキスイハウス、三菱電機

ビルテクノサービス、スズキ自動車販売山形

スキー部

山形県警察署

卓球部

宮城県警、ドン・キホーテ、セキスイハイム東北

バスケットボール部

4年生1名のみ

バドミントン部

N T T東日本、東北ミサワホーム、ホテルルートインG

バレーボール部

株式会社ブルボン、株式会社ヨークベニマル、株式会社ドン・キホーテ、日本生命相互会社、株式会社仙台銀行

ボート部

富士電線株式会社

ボクシング部

株式会社ジャパングリエイト

ライフル射撃部

(株)地域新聞社（千葉県）

OB会の近況など

空手道部

各事業

- ・平成23年度総会
(11月30日 H・リッチフィールド)

活躍のOB

- ・及川 文男（昭和45年卒）
「塩釜藻塩」代表
- ・森 俊博（昭和48年卒）
「公益社団法人日本空手協会」専務理事

剣道部

各事業

- ・昨年1月14日 寺本剣道世界チャンピオンが率いる大阪府警特練員（剣道）が泉キャンパス体育館において、本学剣道部の主催のもと、被災者ための少年少女剣道教室を開催し150名の少年剣士が参加し盛大に行われた。
- ・後援会総会
(8月4日 ハーネル仙台)

活躍のOB

- ・森田 隆郎 (昭和38年卒)
70歳を超えて7段に挑戦し、見事合格する。
- ・白鳥 圭佑 (平成16年卒)
2年連続静岡代表として全日本選手権出場を決める。
- 高坂 雄介 (平成14年卒)
2年ぶりに静岡代表として全日本選手権出場を決める。
- ・吉田 貴 (昭和57年卒)
見事7段合格。
- ・高橋 静 (平成9年卒)
第48回東京官公庁剣道大会にて女子個人3位に入賞する。
- ・東北北海道剣道対抗に本学の先輩3人が出場する。
- 澤田 裕和 (平成10年卒)
- 遠藤 稔正 (平成13年卒)
- 遠藤 卓也 (平成19年卒)

硬式野球部

各事業

- ・OB会総会
(1月21日 ホテルメトロポリタン仙台)
- ・OB会ビヤパーティ
(8月10日 稲荷小路、○△□)
- ・OB会ゴルフコンペ
(11月25日 秋保、太白カントリークラブ)

活躍のOB

- ・岸 貴之 (西武ライオンズ)
- 星 孝典 (西武ライオンズ)
- ・阿部 博文 (七十七銀行)

ゴルフ部

活躍のOB

- ・大友 勝博 (昭和52年卒)
(株)日本ユニシスの執行役員となる。

サッカー部

各事業

- ・OB会総会・懇親会
(3月30日 青葉区五番町「お祭り」)

- ・第43回対青山学院大学OBとの交流ゴルフコンペ
(7月21日 宇都宮ロイヤルゴルフ倶楽部)
 - ・第43回対青山学院大学OBとの懇親会
(7月21日 目黒区自由が丘「蕎麦処・山久」)
 - ・第43回対青山学院大学OBとのサッカー定期戦
(7月22日 青山学院大学緑が丘グラウンド)
- 慶弔関係
- ・平成24年5月30日(水) 山形 明義氏 (昭33年卒)

山岳部

各事業

- ・定期総会
(3月10日 戦災復興記念館)
- ・会報 (時報第23号) 発行 4月
- ・例会山行 年4回
- ・TGヒュッテ「栄光」祭 10月
- ・TGヒュッテ 小メンテ 随時



◀第五十五回TGヒュッテ「栄光」祭にて
(平成二十三年十月二日 十二名参加)

柔道部

各事業

- ・南六会総会&新入生歓迎会
(5月26日 ホテル白萩)

活躍のOB

- ・栗原 則充 (山形県警)
全日本マスターズ柔道大会
40~44歳無差別級 2位
- ・高宮 和弘 (楯岡市役所)
全日本マスターズ柔道大会
40~44歳の部100kg以下 3位

慶弔関係

- ・5月22日 斉藤 昌三 昭和18年9月卒業

準硬式野球部

各事業

- ・OB会総会
(11月26日 ○△□)

スキー部

活躍のOB

- ・鈴木 隆雄 (昭和37年卒)
東武 (東京スカイツリー)

卓球部

各事業

- ・50回記念菊田杯卓球大会
(3月10日 泉キャンパス体育館)
- ・女子部創部50周年及び菊田杯50回記念祝賀会
(7月14日 メトロポリタン仙台)

慶弔関係

- ・7月 大沼 一朗氏 (元監督) 昭36年度卒

バスケットボール部

各事業

- ・平成23年度納会
(平成23年1月28日 レオパレス仙台)

活躍のOB

- ・間橋 健生
(bj/仙台89ERS ゼネラルマネージャー)
- ・加藤 真
(bj/秋田ノーザンハピネッツ)

バドミントン部

各事業

- ・平成24年OBOG会
(4月21日 仙台市)

バレーボール部

各事業

- ・平成24年度総会
(11月26日 勝山館)

ボート部

各事業

- ・仙台艇友会総会

(2月25日 亶門)

活躍のOB

仙台艇友会一発会

- ・第5回全日本マスターズレガッタ
ナックルフォア 優勝
- ・第21回河北レガッタ
ナックルフォア 優勝

慶弔関係

- ・逝去 24.7.8 立花 成夫 (昭和46工卒)

ボクシング部

各事業

- ・OB会総会及び懇親会
(3月24日 仙台スマイルホテル)
会長 小野 潔
副会長 大友 忠
- ・OB会幹事会
(6月16日 東北学院サテライトステーション)
北海定期戦レセプションへ幹事の方々に出席して戴いた。

活躍のOB

- ・相馬 博光
国際審判員として全国主要大会に審判員として活躍。
- ・塩田 茂
積水ハウス釜石営業所所長として震災復興の責務を担っている。

現役部員について

空手道部

今年度の目標

- ・東北大会の連覇、全国大会ベスト8

新入部員の紹介

- ・津田 健陽（宮城水産高校）
- ・北村 真輝（東北学院高校）
- ・中川 靖啓（東北学院高校）
- ・宮城 悠希（東北学院高校）
- ・阿部 亮太（角田高校）
- ・板橋 杏奈（多賀城高校）マネージャー

今年期待の選手

- ・猪狩 伸彦（4年）
過去の実績があり、主将であるため。
- ・関場 一弘（3年）
次世代のエースのため。
- ・浅井 太朗（3年）
次世代のエースのため。

剣道部

今年度の目標

- ・東北学生剣道選手権において男女とも優勝する。（5月修了）
- ・東北総合体育大会剣道の部において男女とも優勝する。（6月修了）
- ・全日本剣道優勝大会3年連続16位であるが今年こそベスト8以上を目指す。

新入部員の紹介

- ・千田 修平（花巻北高校）
- ・山口 敏（聖光学院高校）
- ・野川 峻（山形商業高校）
- ・高橋 稜磨（水沢高校）
- ・菅原 舜（花巻北高校）
- ・斎藤 恭平（山本学園高校）
- ・青木 遵衡（仙台育英学園高校）
- ・水戸 直樹（福岡高校）
- ・村山 京香（新潟中央高校）
- ・安藤 里紗（岩ヶ崎高校）
- ・下山 郁美（東奥義塾高校）
- ・三浦 寿子（秋田北高校）
- ・郷 早希（札幌第一高校）

硬式野球部

今年度の目標

- ・リーグ優勝、全国大会出場

新入部員の紹介

- ・高田 涼平（仙台育英）OF
- ・奥山 優士（日本大学山形高）IF
- ・山本 祐右（仙台育英）OF
- ・加賀 直征（石巻工業高）P
- ・本田 圭祐（東北学院高）P

今年期待の選手

- ・高田 涼平（1年）OF
俊足好打
- ・伊藤 裕介（4年）P
プロ注目選手
- ・小川 翔太（4年）OF
主将としてチームに貢献
- ・佐藤 友裕（3年）IF
長打が期待の中心選手

ゴルフ部

今年度の目標

- ・男子 秋季リーグ戦にて関東学生ゴルフ連盟Bブロック復帰
- ・女子 秋季リーグ戦にて関東女子学生ゴルフ連盟Bブロック昇格

新入部員の紹介

- ・森 貴大（羽黒高校）
- ・山路 陸（東北高校）
- ・法井 望美（福島県立富岡高等学校）

サッカー部

今年度の目標

- ・成績目標
東北地区リーグ戦優勝とインカレ出場。
- ・部全体の目標
自主・自律、そして自己改革。

新入部員の紹介

- ・千葉 尚（秋田商業）DF
- ・大場 浩人（宮城県工）MF
- ・庄子 敦史（聖和学園）FW

- ・貫洞 真吾（利府）MF
- ・大沼 司（塩釜）FC・FW
- ・武田 昂大（盛岡商業）DF
- ・宇津宮 弦（盛岡商業）DF
- ・尾久 一太（盛岡商業）MF
- ・渋谷 祐真（福島東）MF
- ・鈴木 祐太（東北学院）DF
- ・峯岸 隆治（東北学院）GK
- ・澤田 格（不来方）MF

今年期待の選手

- ・岡 岬（4年）
キャプテンとしての責任感
- ・佐藤 弘磁（4年）
1年次からトップチームに居続ける存在。
- ・佐藤 優基（3年）
ボールを保持する技術はチーム一番。
- ・小野寺皓平（2年）
攻撃に関与できるセンターバック。
- ・庄子 敦史（1年）
全国大会東北予選に出場した唯一の1年生。

山岳部

現役活動とOB会サポート状況

- ・平成23年5月2日～5月5日 TGヒュッテ
薪運び他 お釜斜面雪上訓練
東北学院大学山岳部アドバイザー（AD）遠藤 繁
- ・6月25日～26日 TGヒュッテ
新人体験ツアー 遠藤（繁）AD
- ・7月16日～17日 蔵王丸山沢
新人養成登山 遠藤（繁）AD 志子田OB
- ・8月28日～31日 飯豊山
福島側-山都-長坂-御西岳 現役のみで実施
- ・9月17日 新人歓迎会
- ・10月2日～3日 TGヒュッテ
TGヒュッテ祭 米田副会長 他22名
- ・10月8日～9日 北蔵王
体力養成登山 遠藤（繁）AD
- ・10月29日～30日 TGヒュッテ
TGヒュッテ冬囲い 米田副会長 他6名
- ・平成24年1月7日～9日 TGヒュッテ
冬山体験登山 刈田岳アタック
遠藤AD 高橋幹事長 現役 他

現役状況

- ・平成23年4月に2年生部員が退部し、6月に新入生が5人入部しました。30日後に1名が退部、4名が残り3年生1名と5人体制となり部活動が可能となり飯豊連峰を含めて少しずつ前進しております。

柔道部

今年度の目標

- ・東北王者奪還

新入部員の紹介

- ・鈴木 彰人（仙台育英学園）66kg級
- ・難波 樹（柴田）66kg級
- ・其川 元春（仙台育英学園）90kg級
- ・吉田 洋平（田村）100kg級

準硬式野球部

今年度の目標

- ・平成24年度
東北地区大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝
- ・第64回全日本大学準硬式野球選手権大会
出場決定 54回目出場

新入部員の紹介

- ・本間 直樹（仙台高校）投手・内野手
- ・大友 周平（仙台商業高校）外野手
- ・渡辺 雅也（仙台商業高校）捕手
- ・赤間 建太（東北高校）外野手
- ・後藤 尚宏（東北高校）内野手

今年期待の選手

- ・前田 陳（2年）
投手で1年時からゲームに出て活躍している。
- ・信夫 弘至（2年）
内野手で1年時からゲームに出てクリーンアップを打つ。
- ・高橋 拳嗣（3年）
投手で左投げ先発リリーフで活躍する。

水泳部

新入部員の紹介

- ・兎澤雄太郎（情報科学科1年）
北部学生選手権100m背泳ぎ優勝。
- ・佐藤 真鈴（人間科学科1年）

東北地区大学体育大会100m平泳ぎ優勝。

今年期待の選手

- ・ 鋤崎 雄也 (情報科学科 2年)

全日本学生選抜グアム合宿に選出、参加。

スキー部

今年度の目標

- ・ 男子、女子とも 2部総合優勝 1部昇格
- ・ 社会人として頼られる人材を育成し送り出したい。

新入部員の紹介

- ・ 宮田 順平 (山形中央高) アルペン
- ・ 矢萩 七海 (古川黎明高) アルペン

今年期待の選手

- ・ 高橋 淑 (3年)
1年時アルペンスラローム 3位。
- ・ 宮田 順平 (1年)
高校時代の実績から。

卓球部

今年度の目標

- ・ インカレベスト16入り

新入部員の紹介

- ・ 金子 直輝 (専大北上)
- ・ 浜浦 智行 (専大北上)
- ・ 佐々木芳希 (専大北上)
- ・ 菊池 弘樹 (水沢)
- ・ 渡辺 美波 (磐城一高)
- ・ 永嶋 佳穂 (新潟青陵)

バスケットボール部

今年度の目標

- ・ インカレベスト 8 (男女とも全国大学の上位になることを目標として日々練習している)
- ・ 女子は 8月に韓国遠征を実施。更なる技術と精神面の向上を図り更なる強化を目指す。
- ・ 男子はここ 2年間東北王座から離れたため、関西遠征等を実施、東北 1位奪回が目標。

新入部員の紹介

- ・ 菊地 啓志 (聖和学園) フォワード
スターティングメンバーとして活躍中。
- ・ 小瀬川翔太 (黒沢尻工業) ガード

控えのガードとして安定したリードをして活躍中。

- ・ 谷藤 礼実 (盛岡白百合) フォワード
早くから試合に出場し活躍している。

今年期待の選手

- ・ 小山内純平 (3年)
ガードとしてチームを牽引、7月の全日本選抜大会優秀選手賞獲得。
- ・ 菅野 翔太 (3年)
得点力がありチームの柱として1年次から活躍、今年も期待大。
- ・ 庄子 理紗 (4年)
昨年度インカレベスト 8入りの原動力として活躍し、今年度も期待大
- ・ 佐々満里奈 (4年)
昨年度インカレベスト 8入りの原動力として活躍し、得点力に期待大。

バドミントン部

今年度の目標

- ・ 東北春季リーグ、秋リーグ優勝
春 男子 1位 女子 3位
- ・ インカレ 1回戦突破

新入部員の紹介

- ・ 宮崎宗一郎 (聖ウルスラ学院英智)
- ・ 玉手 将弥 (聖ウルスラ学院英智)
- ・ 小野 将治 (帝京安積)
- ・ 太田 羽美 (常盤木学園)
- ・ 大友 華子 (聖和学園)

今年期待の選手

- ・ 小関 裕也
昨年も団体、複、単 2位と東北のチャンピオンで、今年は最後の年なので全国上位を狙っている。

バレーボール部

今年度の目標

- ・ 東北リーグ優勝
- ・ 全日本インカレ、東日本インカレベスト 8入り

新入部員の紹介

- ・ 池田 徹朗 (山形中央高校) サイド
- ・ 加藤 大毅 (相馬高校) セッター
- ・ 佐々木健人 (弘前工業高校) サイド

- ・佐藤 郁也（相馬高校）サイド
- ・菅澤 一裕（仙台三高）ミドル
- ・門間 千秋（利府高校）ミドル
- ・佐藤 可菜（聖和学園高校）セッター

今年期待の選手

- ・瀧澤 陽紀（地域4年）
3年次から東北リーグのスパイク部門タイトルを全て取っているエーススパイカー。

ボート部

今年度の目標

- ・全日本学生選手権大会の優勝

新入部員の紹介

- ・神名川真也（塩釜高校）
インターハイ出場、東北大会優勝
- ・木村 草太（塩釜高校）
インターハイ出場、東北大会優勝

ボクシング部

今年度の目標

- ・部員の確保。東北地区大学での優勝！

新入部員の紹介

- ・尾形 深志（花巻北高校）
- ・高橋 峻介（黒沢尻北高校）

- ・白沢 孝太（酒田南高校）

ライフル射撃部

今年度の目標

- ・少人数ながら優秀な選手が揃っており、全日本学生選手権において総合10位、A R団体8位、関東選手権総合6位A R団体3位、女子においては、全日本女子学生選手権A R団体8位以内を目指す。

新入部員の紹介

- ・佐藤 隆吾（東北高校）

今年期待の選手

- ・古田 信嗣（3年）
- ・荘司みずき（3年）
- ・伊藤 千恵（3年）
- ・照井 彬（2年）
- ・村上 健斗（2年）
- ・高橋 玲那（2年）

etc.

空手部

数千年にわたる塩づくりの歴史をもつ宮城県塩竈市では、海藻のホンダワラを用いた伝統の「藻塩作り」が、いま改めて注目されています。

6年前に「藻塩」の製造を始めたのが「合同会社 顔晴れ（がんばれ）塩竈」の及川文男さんです。

サッカー部

今年から外部コーチを招聘し、チームの底上げを図っています。また、今年は就職内定を早期にもらう4年生が多く、後期のチーム成績に好影響を与えそうです。

卓球部

女子団体 東北学生春季リーグ戦 優勝

ライフル射撃部

ライフル射撃は、第1回オリンピック、アテネ大会から正式種目として現在に至る競技です。

また、現在オリンピックにおいて、陸上・水泳に次いで3番目に多い参加国を有する競技でもあり、世界的に広く認知されているスポーツです。（散弾銃を使用するクレー射撃とは全く別物です）

TGスポーツOB連合会 オリジナルキャップのご紹介

このたび、TGスポーツOB連合会ではオリジナルキャップを作成しました。色はホワイトとブルーの2色となります。お問い合わせは学生課 中野まで (022-264-6474)



1,500円で販売中!

各部のキャラクターを作りますか

いま数部でオリジナルのキャラクターを作成しTシャツ等にプリントして活用しております。

宮城の県獣であります「鹿」をキャラクターとしておりますが、ご希望の部(団体)がありましたらお申し出ください。

デザインは熊谷清デザイン事務所をお願いしていますが、肝心のデザイン料は3万円以内とし、交渉にも応じるとのことでありました。現役部員、OBにとっての「わが部のキャラクター」としていかがでしょうか。



柔道部



スキー部

2012年7月27日から8月12日までイギリスのロンドンで開催された、第30回夏季オリンピック。204の国と地域から約11,000人が参加し、実質19日間（開会式に先立ち男女サッカーの一部試合が行われた2日間を含む）に26競技302種目が行われました。

各国のメダル獲得数と日本人メダリストは以下の通りです。

各国のメダル獲得数

順位	国・地域	金	銀	銅	計
1	アメリカ合衆国 (USA)	46	29	29	104
2	中国 (CHN)	38	27	23	88
3	イギリス (GBR) (開催国)	29	17	19	65
4	ロシア (RUS)	24	26	32	82
5	韓国 (KOR)	13	8	7	28
6	ドイツ (GER)	11	19	14	44
7	フランス (FRA)	11	11	12	34
8	イタリア (ITA)	8	9	11	28
9	ハンガリー (HUN)	8	4	5	17
10	オーストラリア (AUS)	7	16	12	35
11	日本 (JPN)	7	14	17	38
12	カザフスタン (KAZ)	7	1	5	13
13	オランダ (NED)	6	6	8	20
14	ウクライナ (UKR)	6	5	9	20
15	ニューゼaland (NZL)	6	2	5	13
16	キューバ (CUB)	5	3	6	14

順位	国・地域	金	銀	銅	計
17	イラン (IRI)	4	5	3	12
18	ジャマイカ (JAM)	4	4	4	12
19	チェコ (CZE)	4	3	3	10
20	北朝鮮 (PRK)	4	0	2	6
21	スペイン (ESP)	3	10	4	17
22	ブラジル (BRA)	3	5	9	17
23	南アフリカ (RSA)	3	2	1	6
24	エチオピア (ETH)	3	1	3	7
25	クロアチア (CRO)	3	1	2	6
26	ベラルーシ (BLR)	2	5	5	12
27	ルーマニア (ROU)	2	5	2	9
28	ケニア (KEN)	2	4	5	11
29	デンマーク (DEN)	2	4	3	9
30	アゼルバイジャン (AZE)	2	2	6	10
	ポーランド (POL)	2	2	6	10

●日本人メダリスト

日本代表選手団 入賞者一覧

優勝 (金メダル)			
競技	種目	選手名	合計
ボクシング	男子ミドル75kg級	村田 諒太	7
体操・体操競技	男子個人総合	内村 航平	
レスリング	女子フリースタイル48kg級	小原 日登美	
	女子フリースタイル63kg級	伊調 馨	
	女子フリースタイル55kg級	吉田 沙保里	
	男子フリースタイル66kg級	米満 達弘	
柔道	女子57kg級	松本 薫	

2位（銀メダル）			
競技	種目	選手名	合計
水泳・競泳	女子200m平泳ぎ	鈴木 聡美	14
	男子200m背泳ぎ	入江 陵介	
	男子4×100mメドレーリレー	入江 陵介、北島 康介、松田 丈志、藤井 拓郎	
サッカー	女子	鮫島 彩、岩清水 梓、熊谷 紗希、近賀 ゆかり、宮間 あや、阪口 夢穂、川澄 奈穂美、大野 忍、田中 明日菜、福元 美穂、安藤 梢、高瀬 愛実、矢野 喬子、澤穂 希、海堀 あゆみ、大儀見 優季、丸山 桂里奈、岩渕 真奈	
体操・体操競技	男子団体	加藤 凌平、田中 和仁、田中 佑典、内村 航平、山室 光史	
	男子種目別ゆか	内村 航平	
ウエイトリフティング	女子48kg級	三宅 宏実	
卓球	女子団体	石川 佳純、福原 愛、平野 早矢香	
フェンシング	男子フルレ団体	太田 雄貴、千田 健太、三宅 諒、淡路 卓	
柔道	男子60kg級	平岡 拓晃	
	男子73kg級	中矢 力	
	女子78kg超級	杉本 美香	
バドミントン	女子ダブルス	藤井 瑞希、垣岩 令佳	
アーチェリー	男子個人総合	古川 高晴	
3位（銅メダル）			
競技	種目	選手名	合計
陸上競技	男子ハンマー投	室伏 広治	17
水泳・競泳	男子400m個人メドレー	萩野 公介	
	女子100m背泳ぎ	寺川 綾	
	男子100m背泳ぎ	入江 陵介	
	女子100m平泳ぎ	鈴木 聡美	
	男子200mバタフライ	松田 丈志	
	男子200m平泳ぎ	立石 諒	
	女子200mバタフライ	星奈 津美	
女子4×100mメドレーリレー	寺川 綾、鈴木 聡美、加藤 ゆか、上田 春佳		
ボクシング	男子バンタム56kg級	清水 聡	
バレーボール	女子	中道 瞳、竹下 佳江、井上 香織、大友 愛、佐野 優子、山口 舞、荒木 絵里香、木村 沙織、新鍋 理沙、江畑 幸子、狩野 舞子、迫田 さおり	
レスリング	男子グレコローマン60kg級	松本 隆太郎	
	男子フリースタイル55kg級	湯元 進一	
柔道	男子66kg級	海老 沼匡	
	男子90kg級	西山 将士	
	女子63kg級	上野 順恵	
アーチェリー	女子団体	早川 漣、蟹江 美貴、川中 香緒里	

2012年度から 中学校武道・ダンスの必修化

文部科学省では、平成20年3月28日に中学校学習指導要領の改訂を告示し、新学習指導要領では中学校保健体育において、武道・ダンスを含めたすべての領域を必修とすることとしました。

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動です。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動です。

ダンスは、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動です。

「スポーツ講演会」の開催

大学長室主催の「スポーツ講演会」が平成24年9月25日（火）、早稲田大学のスポーツ担当理事を東北学院大学押川記念ホールにお迎えし開催された。大学の教職員、体育会学生、そしてTGスポーツOB連合会のメンバーなど100名以上が熱心に聞き入り、また活発な質疑応答が交わされた。講師と講演会要旨については以下のとおり。

○講 師

早稲田大学理事（スポーツ振興・競技スポーツ担当）
早稲田大学スポーツ科学芸術院教授
宮内 孝知 先生



○講演要旨

1. 大学におけるスポーツとは

(1) 学校教育としてのスポーツ

- 1) 体育各部の強化（体育各部の呼称は東北学院大でいう体育会）
- 2) 体育授業（理論・実技）の充実
- 3) サークル活動の奨励

(2) 私学における経営資源としてのスポーツ

- 1) 体育各部の強化
- 2) 教職員の健康・体力維持増進
- 3) 地域社会への貢献

2. 早稲田の競技スポーツ

(1) 近年の経緯と競技スポーツの強化策

早稲田スポーツの凋落

1990年代半ばまでは大学スポーツランキングで3位以内

1995年6位、97.98年7位、99年5位、2000.01年6位と低迷

早稲田スポーツの衰退に大学に対する悲痛な声と厳しい批判

不振の原因と打開策について理事会において検討が開始される。

(2) スポーツ振興協議会の設置（1999年5月に設置）

目 的：強化スポーツに関する諸政策を検討するため、総長の諮問機関として設置。

構 成：総長が指名する理事、各学部長、体育局長、教務主任、人間科学部教務主任、スポーツ科学科主任、体育各部長から指名された者、教務・学生・総務・財務・総合企画部長等。

設 置 期 間：1999年5月から2000年4月（必要ならば延長も）

検討・審議項目：①競技スポーツの理念に関する事項。②競技スポーツ強化にかかわる体制に関する事項。③競技者確保の方策に関する事項、

- (3) スポーツ振興協議会から理事会に答申(2000年4月)
 早稲田大学における「競技スポーツ強化策」を理事会に答申
- 1) 早稲田大学における競技スポーツ振興の基本的考え方
 ーなぜ「早稲田スポーツ王国の復活」は必要なのか
 - 2) 早稲田大学における「競技スポーツ」振興の意義
 - 3) 競技スポーツ強化策」の構図と戦略
3. 「競技スポーツ強化のための体制」について
 競技スポーツ振興策の策定と支援体制の確立
- (1) 競技スポーツ振興策の策定
 - 1) スポーツ振興策の策定
 - ①スポーツ振興協議会の常設
 - ②理事会にスポーツ担当理事の設置
 競技スポーツ強化策について関係機関に提言
 - 2) 学内外におけるコンセンサスの形成
 理事会・学部長と体育各部長・監督との懇談会設置
 - 3) 校友との連携
 稲門体育会とスポーツ振興協議会との協議機関設置
 - (2) 省略
4. 「競技者確保方策」について
- (1) 基本的考え方
 - 1) 各学部に分散
 - 2) 層を厚くすると同時にトップレベルを
 - 3) 短中期的には重点種目を強化し、それを梃子に全種目のレベルアップ
 - 4) A O入試の制度化
 - (2) 競技者確保の数値目標
 - 1) 短中期目標 トップクラス142名 (①各部共通2名→2名 ②最重点化10部→40名 ③重点化10部→20名)
 - 2) 長期的目標 トップクラス約300名 (1部あたり毎年3~10名)
- 以上。

※なお、上記以外にも資料が提示されたが、強化費や補助金の金額が付されており本誌の講演要旨からは省いた。なお、当日の配布資料の残部が学長室に保管されており、ご入り用の方はTGスポーツOB連合会事務局までお申し出ください。(学生課内)



第3回TG・チーム対抗ゴルフ大会結果

TGスポーツOB連合会主催の第3回TG・チーム対抗ゴルフ大会が、灼熱の太陽が照りつける中48名・24チームの参加をいただき、8月5日(日)杜都カントリークラブにおいて開催されました。今年も星宮望大学長をゲストにお迎えし、暑さも何のそのお元気なプレーを拝見することができ、参加者との親睦を図ることができました。

戦績は次の通りであります。

○チーム対抗

優勝	ゴルフ部B	橋本 直行・萩生恵治郎
準優勝	サッカー部A	三浦 慶郎・若生 清隆
3位	ゴルフ部A	大友 富雄・高橋 知嗣
4位	サッカー部B	大友 義昭・下山 正人
5位	ラグビー部A	工藤 昌彦・末永 隆逸
6位	山岳部A	佐藤 浩輔・千田 光彦
7位	硬式野球部C	佐々原育夫・堀江 喜昭
8位	ラグビー部B	志小田正一・我妻 孝雄
9位	山岳・応援部	渡辺 道夫・薄井 俊彦
10位	硬式野球部B	伊藤 昌俊・佐藤 環
11位	仙台同窓会A	小原 優・深松 徹
12位	ハンドボール部B	菊池 政義・石川 敏明
13位	仙台同窓会C	壹岐 和人・佐藤 順
14位	アメフト部A	田代 行英・高橋 公晴
15位	二部バスケット部A	佐藤 克徳・菱沼 久徳



星宮大学長

橋本・萩生ペア

本間会長

○個人

優勝	橋本 直行	ゴルフ部B
準優勝	伊藤 昌俊	硬式野球部B
3位	大友 富雄	ゴルフ部A
4位	三浦 慶郎	サッカー部A
5位	工藤 昌彦	ラグビー部A
6位	大友 義昭	サッカー部B
7位	渡辺 道夫	山岳・応援部
8位	萩生恵治郎	ゴルフ部B
9位	若生 清隆	サッカー部A
10位	佐藤 浩輔	山岳部A

○ベストグロス

三浦 慶郎 72 (35・37)

大会運営にご協力、ご協賛いただきました皆様に感謝申し上げます。

企画広報委員会

平成24年度T GスポーツOB連合会総会 議事録

1. 日時：平成24年2月9日（木）18：00～18：50

2. 場所：仙台ガーデンパレス

3. 出席：34部／108名

合気道部、アメリカンフットボール部、空手道部、弓道部、剣道部、硬式野球部、ゴルフ部、サッカー部、山岳部、少林寺拳法部、自転車競技部、柔道部、準硬式野球部、水泳部、スキー部、スキューバダイビング部、体操競技部、卓球部、軟式野球部、ハンドボール部、バスケットボール部、バドミントン部、バレーボール部、フェンシング部、ボート部、ボクシング部、ヨット部、ライフル射撃部、ラグビー部、陸上競技部、レスリング部、ワンダーフォーゲル部、応援団、体育会常任幹事会。

（欠席～12部：硬式庭球部、航空部、サイクリング部、自動車部、スケート部、相撲部、ソフトテニス部、ボウリング部、ボディビル部、馬術部、ラクロス部、洋弓部。）

4. 議事の経過及び結果

会則11条に基づき本間良一会長が議長となり議事に入った。

議事録署名人にゴルフ部OBの大友富雄氏と少林寺拳法部OBの門脇邦知氏の2氏を選出した。

【報告事項】

以下の1)～7)について中野総務委員長から報告した。

1) 東日本大震災（H23.3.11）の被災状況等について

寄付金額及び購入・修理願の状況報告

2) 東北学院創立125周年記念事業募金について

東北学院創立125周年記念事業の柱となる、「東北大学片平南地区」土地売買交渉白紙撤回でT GスポーツOB連合の募金活動開始については延期し、状況を鑑み今後の方針を決定する。

3) 第2回T G・チーム対抗ゴルフ大会の開催結果について

平成23年8月8日に「杜の都ゴルフ倶楽部」において開催。81名参加があり、第1回と第2回のチャリティ募金額10万円をキリスト教育児院に寄付した。

4) 会報「躍動」第3号の発行について

平成23年10月1日発行、初めて一部をカラー刷りとした。

5) 創部祝賀会等の開催について

合気道部創部50周年記念演武会（11月19日）が開催された。

6) 新OB会長の就任について

硬式野球部 荒浪 秀男 氏（S46年 経経卒）

ソフトテニス部 須藤 博 氏（S40年 文経卒）

ワンダーフォーゲル部 河村 光保 氏（S42年 文経卒）

体育会常任幹事会 坪子 正博 氏（S53年 経経卒）

7) 新監督の就任について

ボート部 成澤 礼義 氏（S45年 経商卒）

アメリカンフットボール部 鹿野 剛司 氏（H8年 経経卒）

ソフトテニス部 松田 正人 氏（S60年 経商卒）

【審議事項】

- 1) 平成23年度事業報告について
資料をもとに山田事務局長から説明、報告をした。
- 2) 平成23年度収支決算報告について
資料をもとに熊谷財務委員長から説明、報告をした。
収入 1,746,102円 支出 1,580,814円 繰越金 165,288円

監査報告

- 松本宏一監事（スキー部OB）から監査結果の報告がなされた。 < 1) ~ 2) 承認 >
- 3) 平成24年度事業計画案について
資料をもとに山田事務局長から説明。
 - 4) 平成24年度収支予算案について
資料をもとに武田財務委員から説明をした。
収入 1,665,423円 支出 1,245,000円 予備費 420,423円 < 3) ~ 4) 承認 >
 - 5) 平成23年度勲功章案について
資料をもとに中野総務委員長から説明をした。
446号から450号まで1団体、4個人の表彰を承認。 < 5) 承認 >

議長の本間会長は、その他の議案がないことを確認した。以上により本総会の議事を終了し本間会長は閉会を宣言した。

平成24年度T GスポーツOB連合会交流会

*平成24年2月9日(木)

*仙台ガーデンパレス

■勲功章贈呈式

No.	表彰No.	表彰団体・同個人	所 属	学部・学年・卒年	表 彰 理 由
1	446	弓道部女子団体 杉澤 美穂 佐藤 捺月 長谷川 愛 佐藤愛結美 松岡 渚	弓道部	経営学科2年 共生社会学科2年 法律学科2年 経営学科3年 共生社会学科3年	第59回全日本学生弓道選手権大会女子の部 第2位
2	447	齋藤 禮治	山岳部OB	昭和35年 文経学部経済学科卒	TGヒュッテ「栄光」メンテナンス委員長として15年に亘り保守、保全に多大の貢献
3	448	栗原 則充	柔道部OB	平成2年 法学部法律学科卒	第8回日本マスターズ柔道大会 年齢別(40～44歳)無差別級の部 第2位
4	449	高宮 和弘	柔道部OB	平成3年 法学部法律学科卒	第8回日本マスターズ柔道大会 年齢別(40～44歳)100kg以下級の部 第3位
5	450	石森 辰浩	柔道部OB	平成15年 経済学部経済学科卒	第8回日本マスターズ柔道大会 年齢別(30～34歳)81kg以下級の部 優勝 第8回日本マスターズ柔道大会 団体の部 優勝

■交流会

主催挨拶 本間 良一 TGスポーツOB連合会会長
 祝 辞 平河内健治 学校法人東北学院理事長
 星宮 望 東北学院院長・大学長・同窓会長
 乾 杯 柴田 良孝 東北学院大学副学長
 近況報告
 校歌斉唱 応援団OB
 閉会挨拶 仲嶋 一雄 TGスポーツOB連合会副会長

T G スポーツ O B 連 合 会 会 則

(名称・組織)

第1条 本会は、T G スポーツ O B 連 合 会 と 称 し、東 北 学 院 大 学 体 育 会 各 部 O B、並 び に 応 援 団 O B、及 び 理 事 会 で 推 薦 し た 者 を 以 っ て 組 織 す る。

(目的)

第2条 本会は東北学院スポーツの振興と発展のため、物心両面の援助を図るとともに、会員相互の融和と団結を図り母校の隆盛に寄与することを以って目的とする。

(事務局)

第3条 本会の事務局を東北学院大学内に置く。

(事業)

第4条 本会は第2条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

1. 優秀団体、優秀選手の表彰
2. 指導者講習会
3. 体育会所属学生への指導、援助
4. 会員名簿の管理
5. 交流会
6. その他、会の運営に必要な事業

(会員)

第5条 本会の会員を下記二種に区分する。

1. 正会員
2. 特別会員

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

1. 会 長 1名
2. 副 会 長 3名
3. 理 事 長 1名
4. 常 任 理 事 15名
5. 理 事 各 部 よ り 2 名、並 び に 会 長 委 嘱 の 者 若 干 名
6. 事 務 局 長 1 名
7. 監 事 2 名
8. 顧 問 若 干 名
9. 名 誉 会 長、相 談 役、参 与 を 置 く こ と が で き る。

(選任)

第7条 役員を選任は次による。

1. 会長並びに理事長は理事会において推薦され総会で承認を得る。
2. 副会長は会長が指名する。
3. 理事は各部OB会から選出された者と会長委嘱の者とし、理事会を構成する。理事会は理事長、常任理事をそれぞれ推薦、選出し、総会の承認を得る。
4. 事務局長は理事会において選出する。
5. 監事は総会において会員の中から選出する。
6. 顧問は各OB会等から推薦された者、及び本会の発展に特に功労があった者を会長が委嘱する。
7. 名誉会長、相談役、及び参与は会長が委嘱し、総会で承認を得る。

(役員の仕事)

- 第8条
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行する。
 3. 理事長は事業の実務の執行を指示し管理する。

4. 常任理事、及び理事は具体的な実務の執行を行なう。
5. 事務局長は本会の円滑な運営のため事務全般を担当する。
6. 監事は定時総会において監査の結果を報告する。
7. 顧問は重要事項につき会長の諮問に応じる。

(任期)

第9条 役員任期は2ケ年とする。但し再任を妨げない。

(会議)

第10条 本会に次の会を置く。

1. 総会
2. 常任理事会
3. 理事会
4. 専門委員会

第11条 総会は年一回開催し、会長がこれを招集し議長となる。臨時総会は必要ある時に、会長がこれを招集する。

第12条 総会は本会の最高の意思決定事項とし、次の事項を決議する。

1. 事業報告及び収支決算
2. 事業計画及び収支予算
3. その他重要な事項

第13条 常任理事会、理事会及び専門委員会は理事長が必要に応じて召集する。

第14条 総会、常任理事会、理事会の議事は、出席者の過半数を以って決定し、可否同数の場合は会長の決するところによる。

(会計)

第15条 本会の会費は、体育会各部OB会、並びに応援団OB会より年会費を徴収する。その他、助成金、寄付金を以って会の運営費に充てる。

第16条 本会の会計については、事務局で管理する。

第17条 本会の事業、会計年度は1月1日に始まり同年12月31日に終わるものとする。

付 則

1. 会則

本会則は昭和48年（1973）11月22日から施行する（会名称は春秋会）

平成2年（1990）2月6日、会則の一部改正（総会）

平成6年（1994）10月28日、会則一部改正（臨時総会）

会名称変更。春秋会からT GスポーツOB連合会に

平成14年（2002）2月12日、会則の一部改正（総会）

副会長枠数、役員選任方法の一部改正

平成18年（2006）2月16日、会則の一部改正（総会）

幹事名称を理事名称に変更。専門委員会の設置、会計年度の変更

平成19年（2007）2月15日、会則の一部改正（総会）

終身会費の廃止

平成20年（2008）2月14日、会則の一部改正（総会）

第2条、スポーツ推薦等と、の文言を削除

2. 年会費は別に定める。
3. 表彰規定は別に定める。
4. 専門委員会規定は別に定める。
5. 慶弔規程は別に定める。

T G スポーツ O B 連合会 役員 〈平成24年度〉

顧問 平河内健治 東北学院理事長
星宮 望 東北学院長・大学長

相談役	辻 秀人	学生部長 (文学部)	工藤 哲男	元本会副会長 (2代監督会長)
	原田 善教	体育会長 (経済学部)	佐藤 正	前本会副会長 (3代監督会長)
	刈冢アキラ・ロング	体育会副会長 (文学部)	伊藤 哲夫	前本会副会長
	仁昌寺正一	体育会副会長 (経済学部)	高橋 嘉男	元本会事務局長
	根市 一志	体育会副会長 (経営学部)	石井 勝雄	学生課長
	澤野 和博	体育会副会長 (法学部)	海老田保夫	校友課長
	佐々木桂二	体育会副会長 (教養学部)		

参 与 加盟団体各OB会会長

役 職	氏 名	卒年・学科	所 属 部	備 考
会 長	本間 良一	S33文経	サッカー部	宮城県サッカー協会
副 会 長 (3名)	仲嶋 一雄	S41文経	ハンドボール部	ハンドボール部OB会長 (OB会長枠)
	森 俊博	S48経商	空手道部	モリプレゼンス(株) (会長指名枠)
	栗野 眞	S52経経	ライフル射撃部	監督会長 (監督会長枠)
理 事 長	高橋富士男	S45法法	柔道部	柔道部副部長、師範
常任理事 (15名)	鈴木 浩	S37文経	陸上競技部	陸上競技部OB会長
	熊谷 聖	S41文経	弓道部	弓道部OB会長
	増田 量吉	S42文経	ボート部	ボート部前監督
	佐藤 順	S45経商	サッカー部	サッカー部総監督
	藤井 治夫	S45経商	ワンダーフォーゲル部	ワンダーフォーゲル部OB会幹事
	菊地 正	S46経経	バドミントン部	バドミントン部監督
	武田三子雄	S47経経	剣道部	剣道部副部長
	佐藤今朝善	S49法法	ボクシング部	ボクシング部監督
	伏見 善成	S50経商	準硬式野球部	準硬式野球部監督、監督会副会長
	中野 信朗	S50経経	スキー部	スキー部副部長 (※事務局兼務)
	千葉 幹雄	S53経経	自転車競技部	自転車競技部OB会副会長
	伊藤 昌俊	S53経経	硬式野球部	硬式野球部OB会幹事長
	大友 富雄	S55経経	ゴルフ部	ゴルフ部監督
	高橋 公晴	S56経経	アメリカンフットボール部	アメフト部OB会副会長
増田 孝夫	S63文史	卓球部	卓球部監督	
理 事	加盟団体より各2名			
監 事	八島 康治	S52経経	準硬式野球部	
	松本 宏一	S56経経	スキー部	
事務局長	山田 純	H06経商	ラグビー部	ラグビー部副部長
事 務 局	石田 伸彦	H06教人	水泳部	水泳部副部長
	尾形 依子	H08経経	ヨット部	ヨット部コーチ

〈事務局〉 〒980-8511 青葉区土樋1-3-1 東北学院大学学生課内 TEL 022-264-6474



TGスポーツOB連合会
<http://www.tgaa.jp/>